



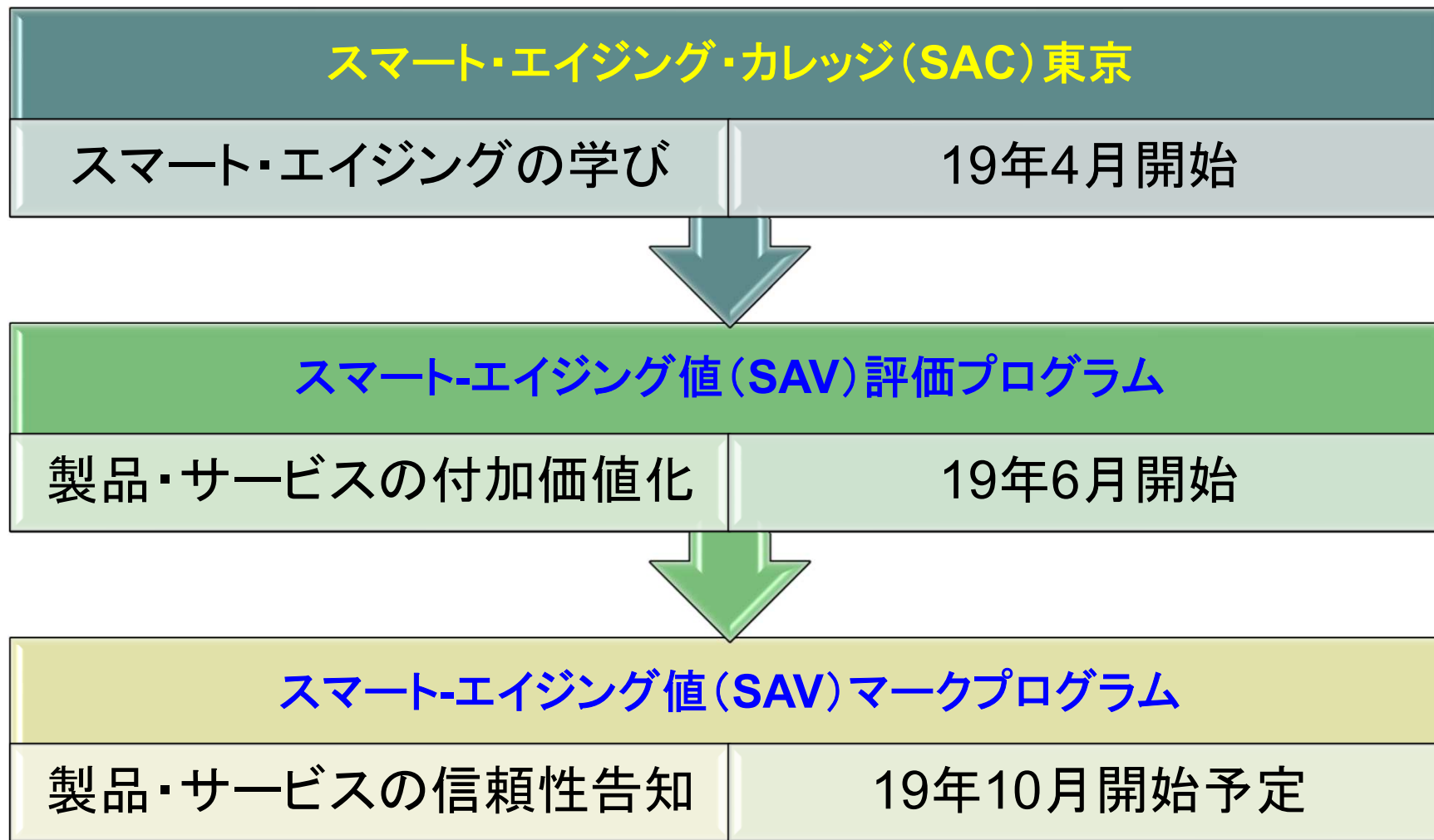
# 東北大学スマート・エイジング事業(2019年度)の ご案内

---

2019年3月

東北大学スマート・エイジング  
学際重点研究センター

# 東北大学のスマート・エイジング(SA)事業は 2019年度より、次の通りとなります



\* スマート・エイジング、スマート・エイジング値、SAVは東北大学の登録商標(出願済)です

Copyright© Smart-Aging Research Center All Rights Reserved.

# スマート-エイジング値 (SAV) 評価プログラム

## なぜ、いま、SAV評価プログラムなのでしょうか(1)

1. 超々高齢社会・人生100年時代が市場に浸透  
→人々の健康志向はますます強まる
2. 健康増進効果を謳った製品が市場に急増  
→認知症予防・介護予防・脳機能向上・・・
3. 効果の学術的エビデンス\*が不明なものが多い  
→エビデンスがあっても、その水準がまちまち

\*エビデンス evidence:根拠

## なぜ、いま、SAV評価プログラムなのでしょう(2)

4. これからは**エビデンス**なしに、その製品が「健康によい・認知機能が向上する」と言えなくなる  
→製品に対する**人々の目がますます肥える**
5. 仮にエビデンスがあっても、その**信ぴょう性**が**どのレベルなのかが重要**になる  
→**訴訟リスクが大きくなる可能性**

# エビデンスの信ぴょう性がないために訴えられ、 罰則を命じられた例



米連邦取引委員会がLumosityの脳トレプログラムに  
効果が見られないために**2億4千万円の罰金**を命じた

A screenshot of a press release from the Federal Trade Commission. On the left is the Lumosity logo, which consists of a stylized human head in profile with a tree-like shape inside, set against a blue background. In the center is the FTC logo, a circular seal with a scale of justice, and the text "FEDERAL TRADE COMMISSION" and "PROTECTING AMERICA'S CONSUMERS". Below the logos, there are two colored boxes with text. The left box is pink and contains the text "提供企業" and a list of two items: "1. 多額の罰金" and "2. 信頼喪失". The right box is yellow and contains the text "利用者" and a list of two items: "1. お金・時間の浪費" and "2. 改善効果なし". The background text of the press release is partially visible, including "Pay \$", "Advertisi", "ning" Pr", and "Company claimed Program would sharpen performance in Everyday Life and Protect Against Cognitive Decline".

**提供企業**

1. 多額の罰金
2. 信頼喪失

**利用者**

1. お金・時間の浪費
2. 改善効果なし

## なぜ、いま、SAV評価プログラムなのでしょうか(3)

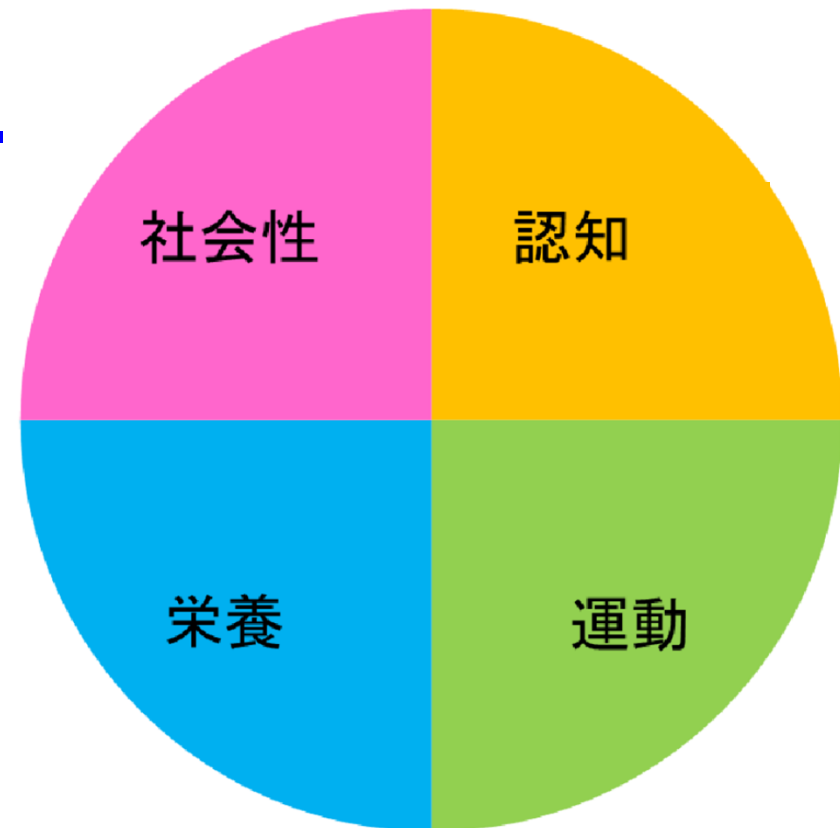
スマート・エイジングの観点で、  
エビデンスのレベルを考慮した  
製品・サービスの開発・設計が不可欠になる



これをご支援するのが  
**SAV評価プログラム**

## スマート・エイジング値とは？ (Smart-Aging Value: SAV)

- 認知・運動・栄養・社会性の要素からなるスマート・エイジング・アプローチの観点で、
- 【人の健康や認知機能】の促進に寄与する製品・サービスの有効性や社会的インパクトをエビデンスレベルで評価した値





# SAV評価は企業の皆様に 対象製品のエビデンスを提出頂いて実施します

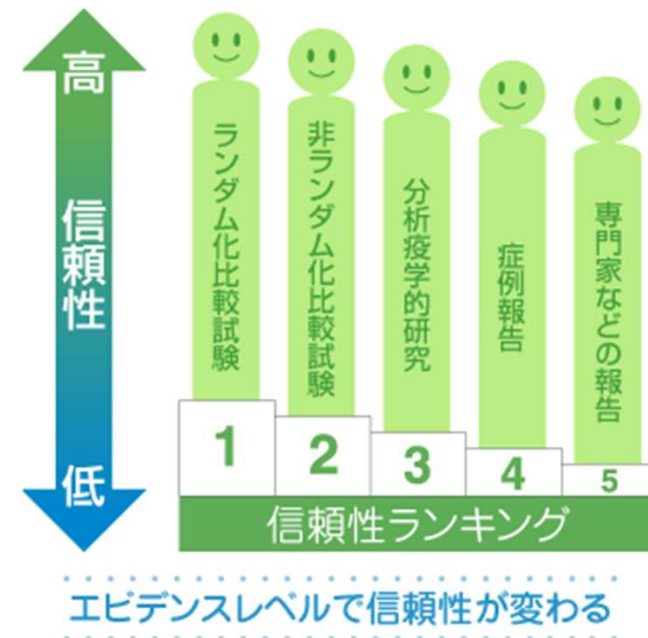


1. 企業側に提出頂くもの（申込時にNDAを締結）
  - ① 評価を希望する製品・サービスの情報
  - ② 製品・サービスの良さ・利点を調べたエビデンス  
→製品・サービスを直接利用した、または類似した製品・サービスを利用した効果検証の学術論文やインタビューやアンケート結果など
  
2. 東北大学による評価手順
  - ① 提出された製品・サービス情報の内容の審査
  - ② 提出されたエビデンスのレベルの評価  
→SAV星5つから星なしの6段階で評価
  - ③ 学内に「SAV評価委員会」を設置、専門的な立場で評価

## エビデンスレベルの評価方法(1)

1. 東北大学が独自に開発し、学術的に評価された科学的手法を用いる。
2. 評価手法のイメージは「**根拠に基づく医療**」(evidence-based medicine, EBM)

例:コクランのエビデンスレベル分類  
この評価手法に類似



# エビデンスレベルの評価方法(2)

## ランダム化比較試験(RCT)評価基準の例



- 評価基準の一つとして、川島隆太教授らが提唱した **RCTの評価基準**を用いる。

	評価項目	評価内容
1	ランダム化	参加者を無作為に2群以上に割り振っているか
2	ブラインド化	参加者が介入の目的や他の群の内容などを知っているか
3	群の均質化	介入群と対象群の属性(年齢・学歴)などが同じ
4	研究参加要件の明示	研究参加者としての除外条件と適合条件を詳しく指定しているか

全部で14の評価項目があり、提出されたエビデンスに基づいて評価する

Nouchi, R. & Kawashima, R. Improving cognitive function from children to old age: A systematic review of recent Smart Ageing intervention studies. *Advances in Neuroscience*, 2014, 235479(pp.1-15), 2014.

# SAV評価の例

## (1)カーブス:サーキット運動プログラム

1. 評価を希望する製品・サービスの情報
  - ① 油圧式マシンを使った有酸素運動と筋力運動を組み合わせたサーキット運動が認知機能を向上させる。
2. 製品・サービスの良さ・利点を調べたエビデンス
  - ① 介入の効果検証のRCT論文:Nouchi et al. 2014, Age.

サーキット運動プログラム

【運動】

スマート・エイジング値

星4つ



# SAV評価の例

## (2) 任天堂: 脳を鍛える大人のDSトレーニング

1. 評価を希望する製品・サービスの情報
  - ① DSを使った脳トレプログラムが認知機能を向上させる。
2. 製品・サービスの良さ・利点を調べたエビデンス
  - ① 介入の効果検証のRCT論文: Nouchi et al. 2012, PloS One

脳トレ  
【認知】  
スマート・エイジング値  
星4つ  
★★★★



The image shows the cover of the Nintendo DS game 'Brain Training for Older Adults' (脳を鍛える大人のDSトレーニング). The cover features the title in large characters, the Nintendo logo, and a portrait of Professor Kawashima. Text on the cover includes 'Nintendo', '東北大学未来科学技術共同研究センター 川島隆太教授監修', '脳を鍛える大人のDSトレーニング', 'CERO 全年齢', and 'あなたの「脳」は何歳ですか 川島隆太教授監修の脳機能診断であなたの脳をスバリ判定'.

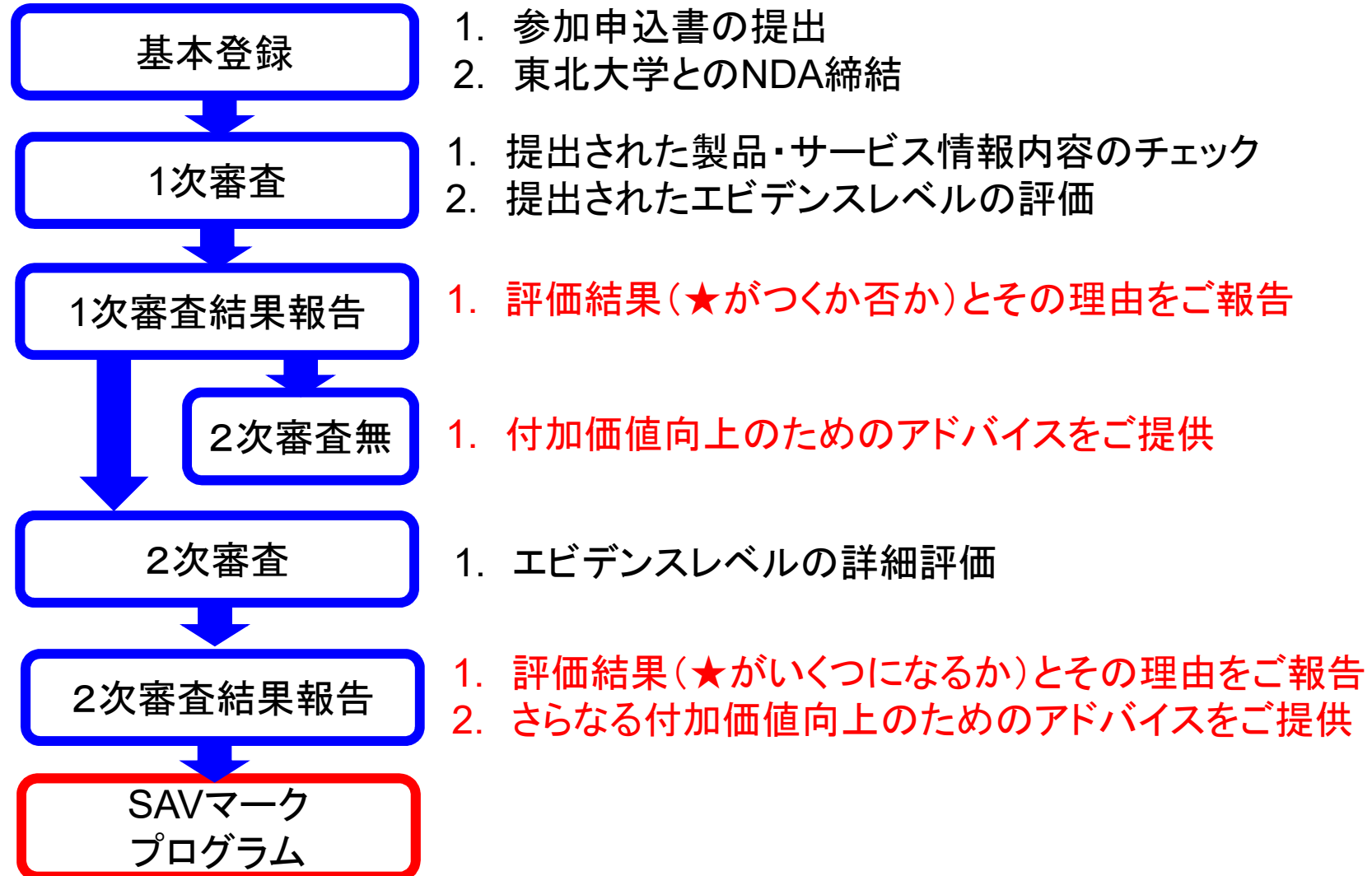
## SAV評価の例 (3) A社:カラフルドリンク

1. 評価を希望する製品・サービスの情報
  - ① カラフルドリンクが認知機能を向上させる。
2. 製品・サービスの良さ・利点を調べたエビデンス
  - ① 日本栄養・食糧学会誌 2014年

カラフルドリンク  
【栄養】  
スマート・エイジング値  
星1つ



# SAV評価プログラム ご利用の流れ



# SAV評価は企業の皆様にとって 次の3つのメリットがあります



1. 自社の製品・サービス(商品化済・開発中)を  
SAVの観点で評価でき、その理由がわかります
2. SAVの観点での製品・サービスの  
付加価値向上のアドバイスが得られます
  - ① どんなエビデンスがあると付加価値が上がるか？
  - ② そのために必要なアクションは何か？
3. 星一つ以上の場合、ご希望によりSAV評価結果を  
公表(広告PR・カタログ等での掲載)できます



# スマート-エイジング値 (SAV) マークプログラム

# SAVマークを貴社の製品・サービスに 掲示できます



1. SAV評価が星一つ以上の  
場合、「SAVマーク利用権」  
を取得できます
2. 「SAVマーク」(右図は例)を  
当該製品・サービスのラベ  
ル、パンフレット、広告等に  
掲示できます
3. 星の数はエビデンスレベル  
に応じて変わります



\* SAVマークの正式  
デザインは別途決定

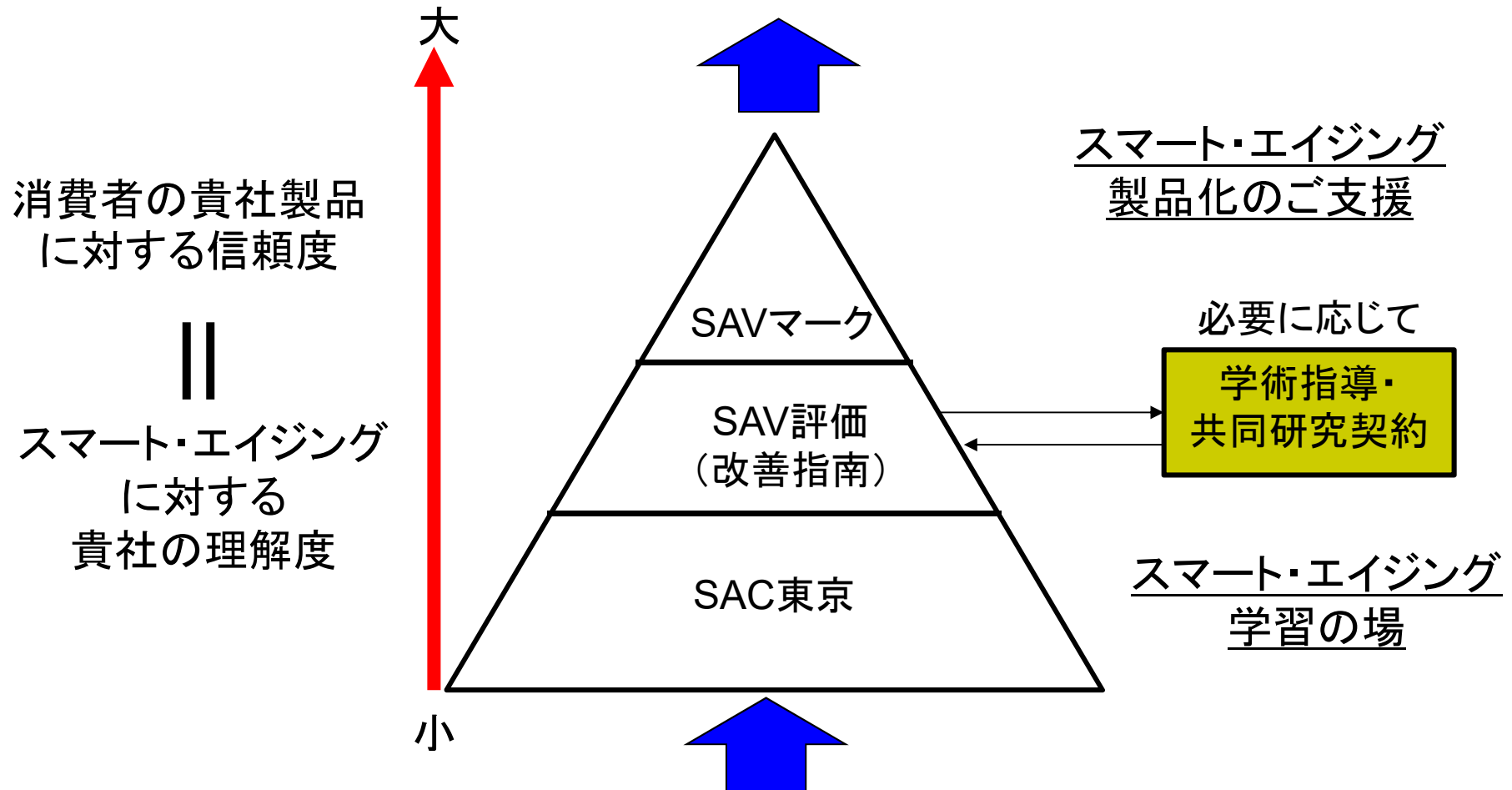
## SAVマークプログラムには 次の2つのメリットがあります



1. SAVの観点からの評価を示すSAVマークを自社製品・サービスに付帯することで消費者からの信頼度向上に活用できます
2. SAVの観点から、自社製品・サービスの価値訴求を差異化できます



# スマート・エイジング事業(2019年度)の位置づけと 企業の皆様のご活用方法は次の通りです





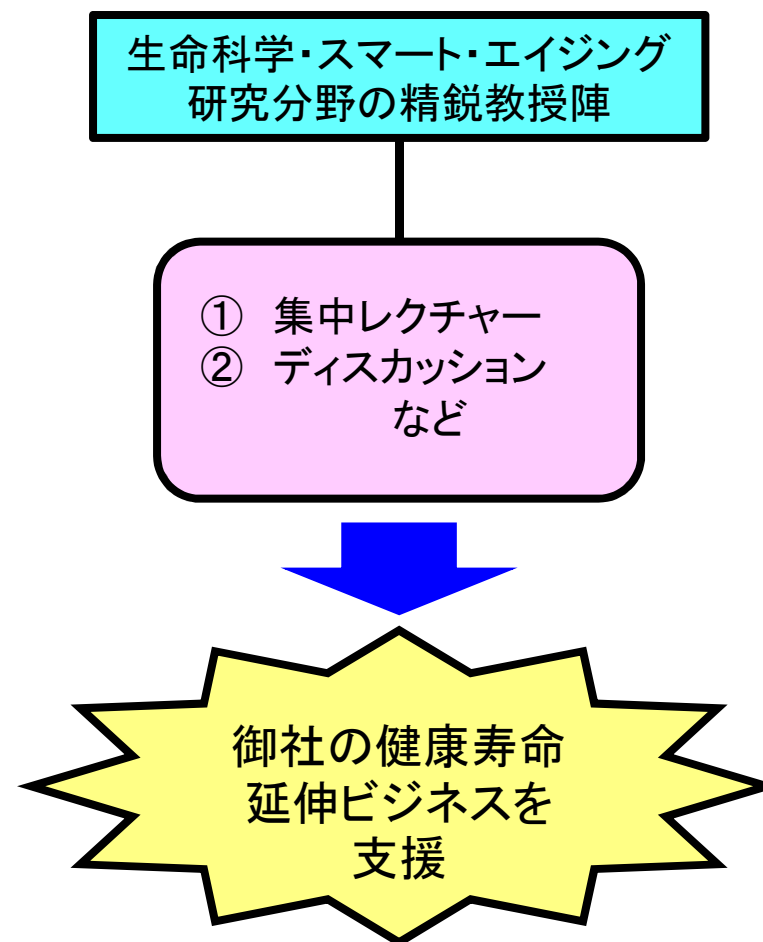
# スマート・エイジング・カレッジ(SAC)東京

## 第5期

# 東北大学スマート・エイジング・カレッジ東京とは？



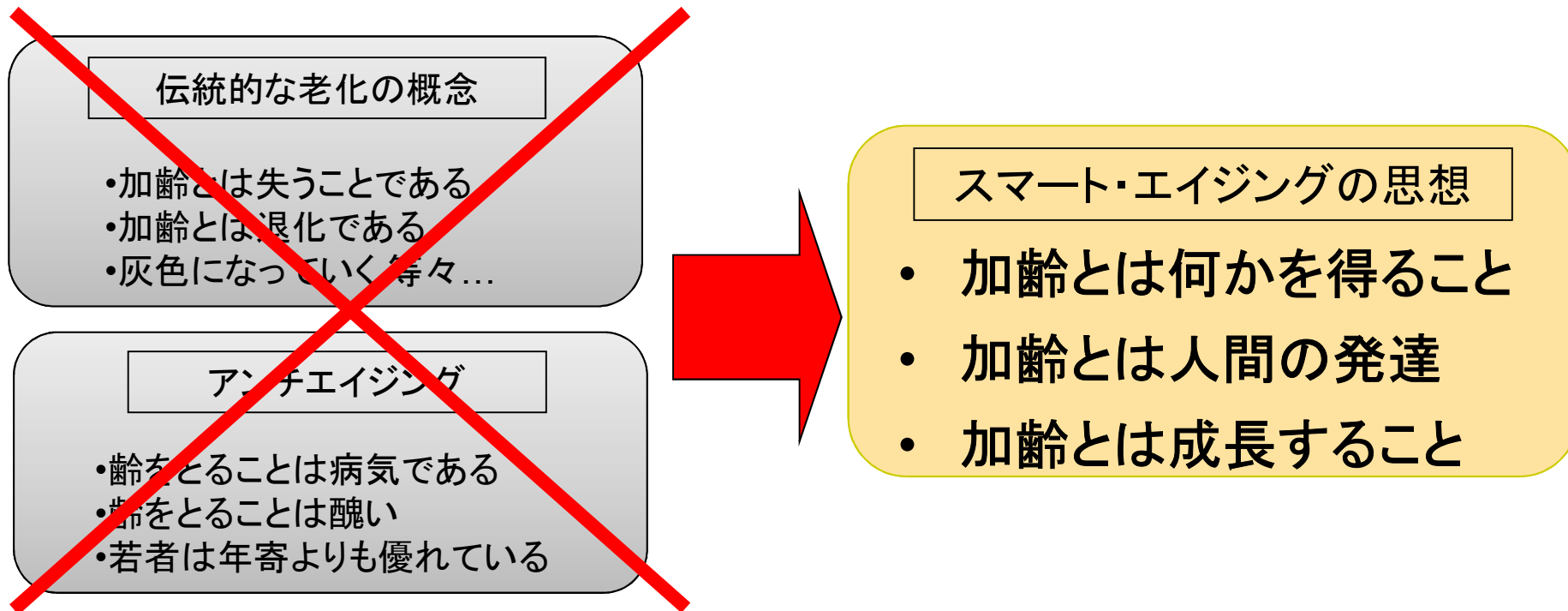
1. 東北大学の生命科学・スマート・エイジング研究分野の**精鋭教授陣**が、
2. **御社からの受講生**に対して、東北大学の研究シーズ情報をレクチャーとディスカッションの形で提供し、
3. 貴社の健康寿命延伸ビジネスを多様な角度から支援する**「事業支援カレッジ」**です



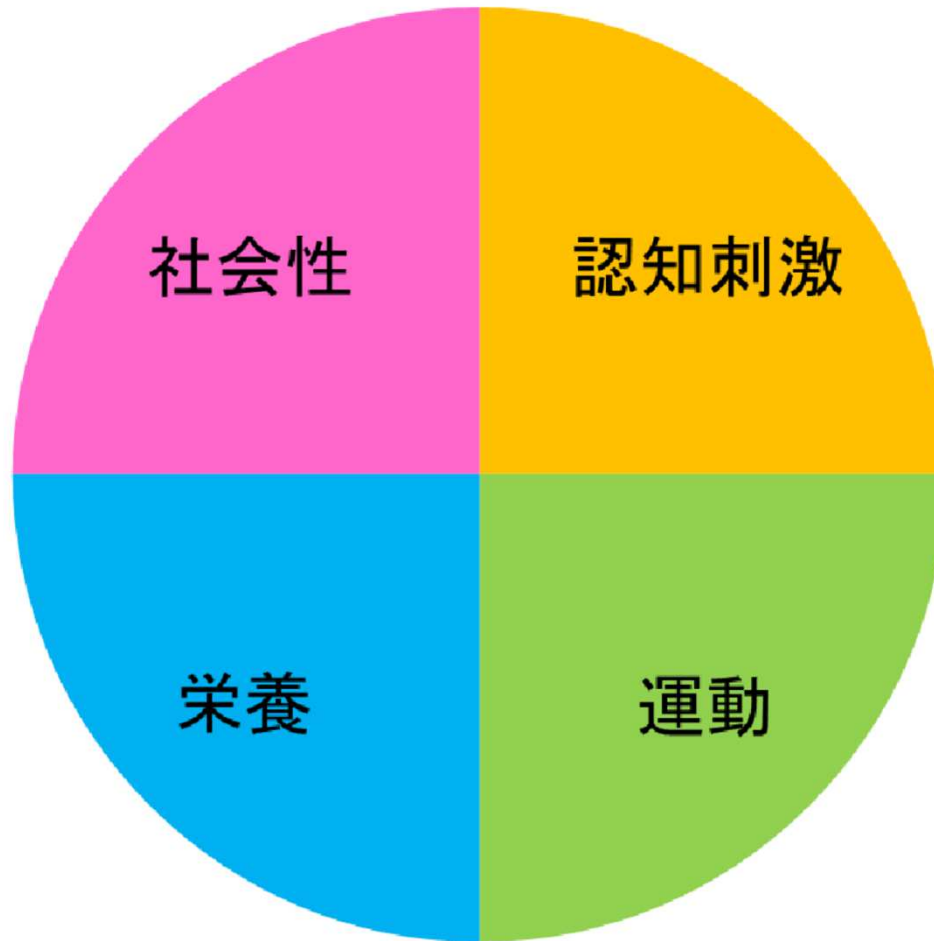
# スマート・エイジング(Smart-Aging)とは？

- 定義: エイジングによる経年変化に賢く対処し、**個人・社会が知的に成熟すること**。
- 個人は、時間の経過とともに、たとえ高齢期になっても人間として成長でき、より賢くなれる、社会はより賢明で持続的な構造に進化することを意味します。

参考文献: 川島隆太・村田裕之共著「スマート・エイジングという生き方」



# スマート・エイジングのための四条件



1. 脳を使う習慣
2. 身体を動かす習慣
3. バランスのとれた栄養
4. 人と積極的に関わる習慣



# 東北大学のスマート・エイジング研究は 他に例のないユニークなものです。



1. 国内トップクラス、  
世界でも有数の  
脳科学研究環境

2. 民間企業との圧倒的  
な産学連携実績

3. 強力な海外ネットワーク  
と国際協働実績

4. 市民参加型による  
研究開発の仕組み

# 1. 世界でも有数の脳科学研究環境 ワンストップの最先端脳科学研究ラボ



研究専用3TMRI装置



200チャンネル  
MEG装置



192チャンネル  
EEG装置



多チャンネルNIRS



動物用7TMRI装置



ラット用EEG装置



簡易EEG



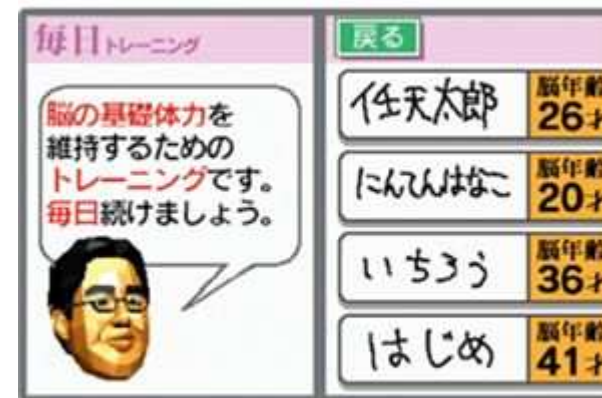
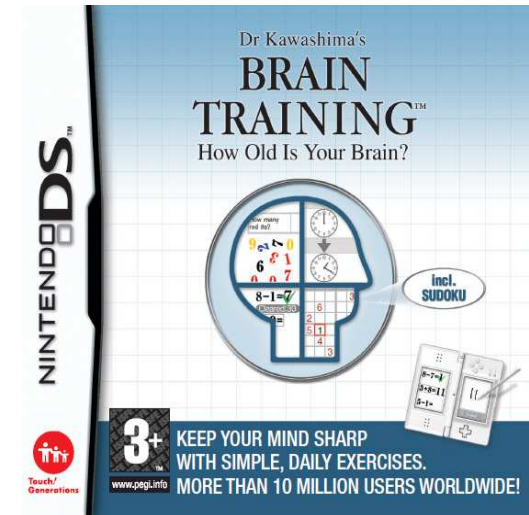
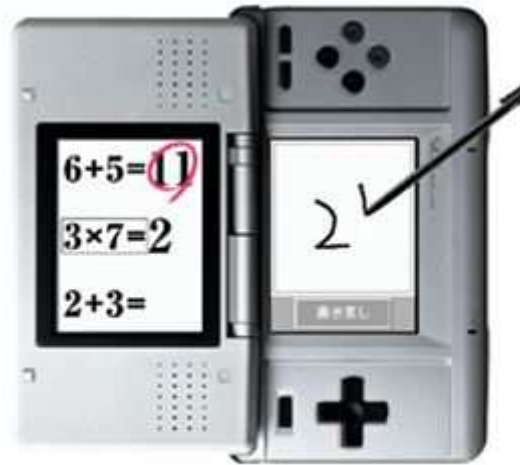
携帯型NIRS



小型2チャン  
ネルNIRS

一つのラボでほぼ全ての脳機能イメージング装置をそろえている例は世界でも希

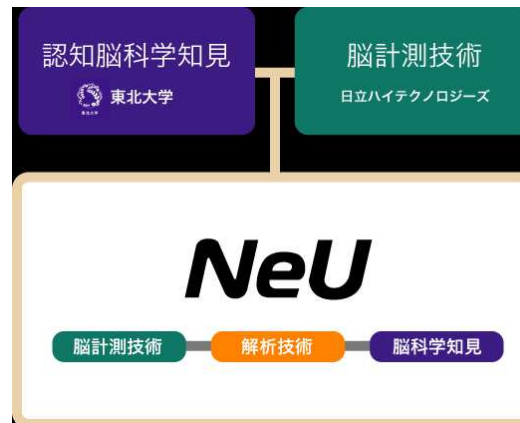
## 2. 民間企業との圧倒的な産学連携実績 例：任天堂 脳を鍛える大人のDSトレーニング 全世界で3,300万セット以上を販売



# 例：超小型NIRS（近赤外光計測装置）の開発と 東北大学発ベンチャー株式会社NeU（ニュー）



- 東北大学の「**認知脳科学知見**」と、日立ハイテクノロジーズの「**携帯型脳計測技術**」を融合、脳科学の産業応用をめざす。





## 例：眼鏡型センサー JINS MEME

- ジンズとの産学連携で開発。消費カロリー、速度、姿勢等の運動状態を把握し、ライフログとして記録可能になりました。
- 眼の動きの変化から、自覚が難しい肉体と精神の疲労度を割り出すことも可能。



## 例：学習療法

- 公文教育研究会との産学連携で開発。
- 「認知症非薬物療法のスタンダード」として厚労省に評価。



### 3. 強力な海外ネットワークと国際協働実績 日本発の認知症療法がアメリカでも導入された



Copyright© Smart-Aging Research Center All Rights Reserved.



# 学習療法でアメリカの認知症高齢者が家族との絆を取り戻す映画「僕がジョンと呼ばれるまで」



1. アメリカンドキュメンタリー映画祭観客賞
2. ロサンゼルス・ムービー・アワード奨励賞
3. ベルリン国際フィルム・アワード特別選考賞
4. クリーブランド国際映画祭・2部門ノミネート上映
5. ベルギー国際健康映画祭・高齢者福祉部門ノミネート上映
6. 文部科学省選定作品

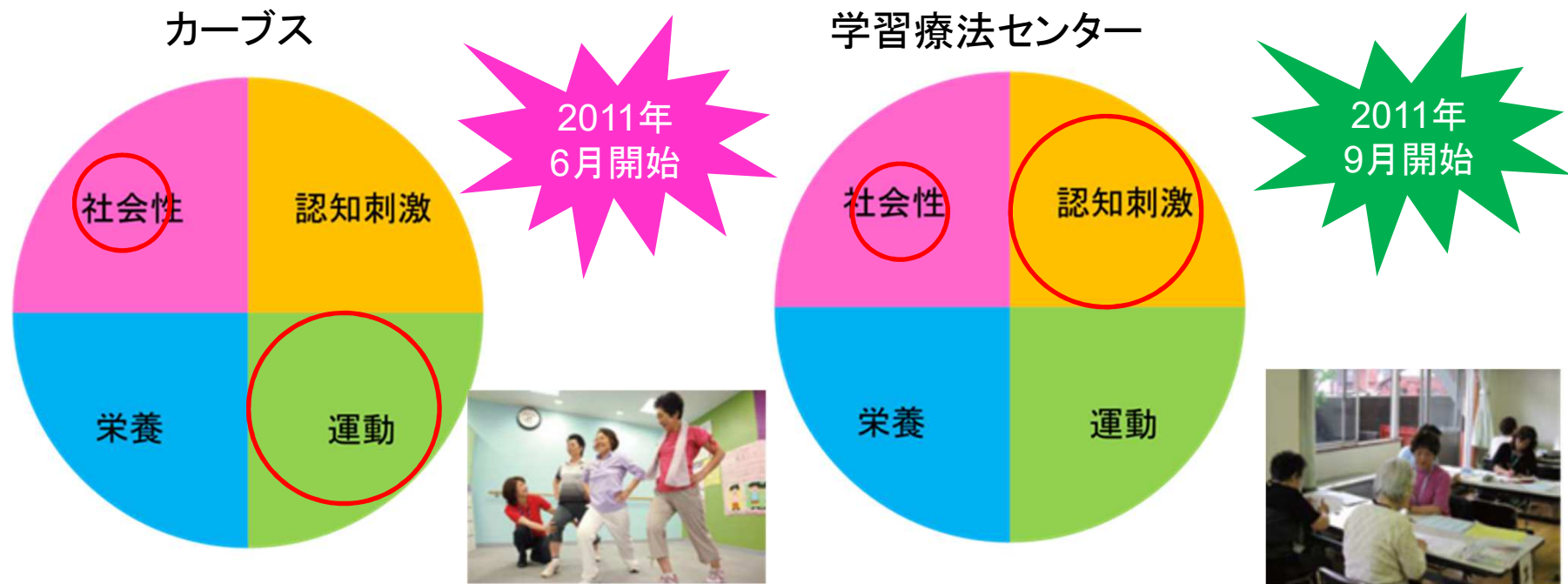
米国アカデミー賞にエントリー  
日本のドキュメンタリーとして初

Copyright© Smart-Aging Research Center All Rights Reserved.



## 4. 市民参加型による研究開発の仕組み スマート・エイジング・スクエア

- センター6階に産学連携スペースを設置。
- サービス利用者の**市民が研究活動に積極的に協力**。

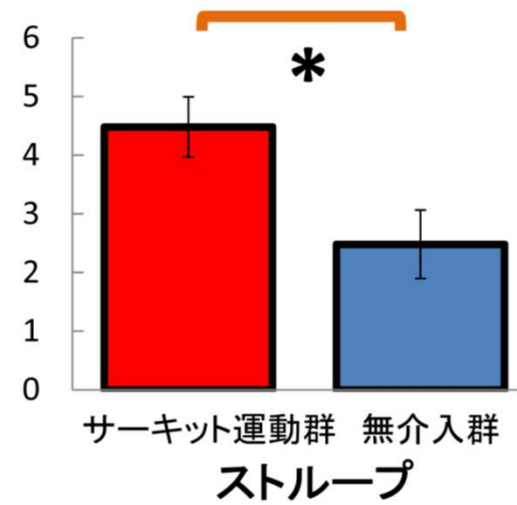
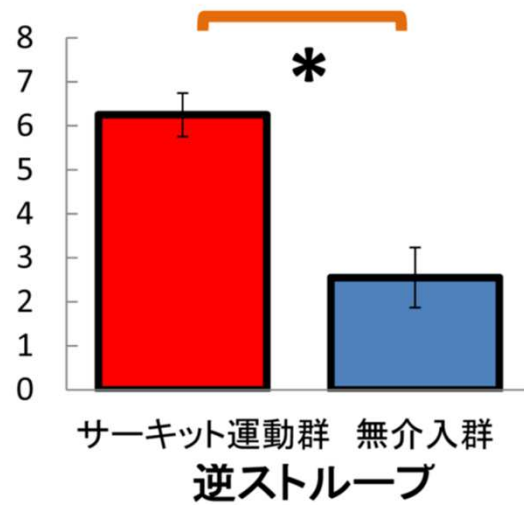
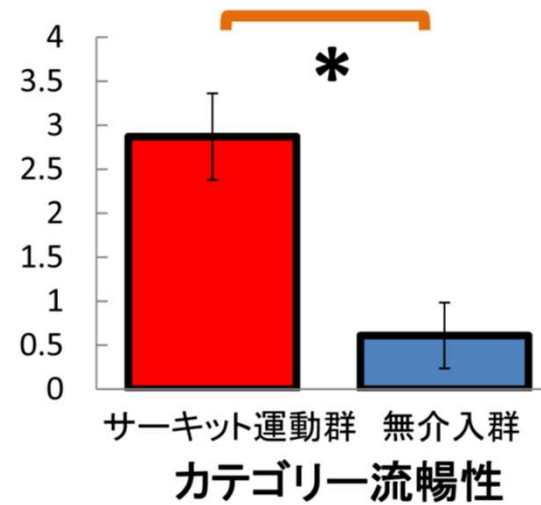
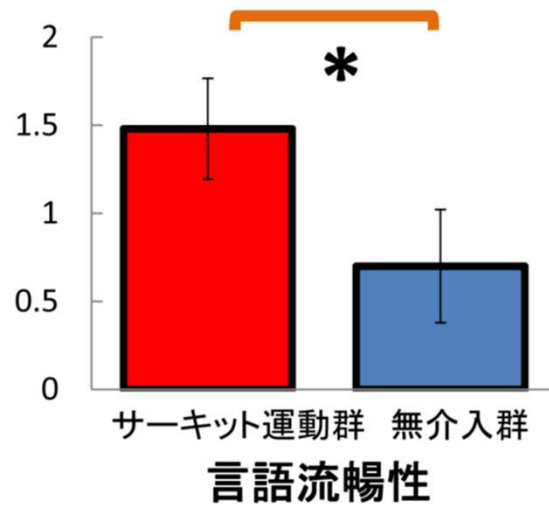


# カーブス東北大学加齢研SAスクエア店 全国トップ10に入る人気店



Copyright© Smart-Aging Research Center All Rights Reserved.

# 4週間のトレーニングで脳の実行機能・ エピソード記憶・処理速度が向上することが判明



# 東北大学SAC東京第5期 3つのコースと参加企業対象



## 1. コース I

- ① 2019年度からの新規参加企業(優先)
- ② 継続参加企業

## 2. コース II

- ① 第4期コース I 参加企業(優先)
- ② 2019年度からの新規参加企業

## 3. コースB

- ① 第4期にコース II またはコースB参加で、累計2口以上参加実績のある企業



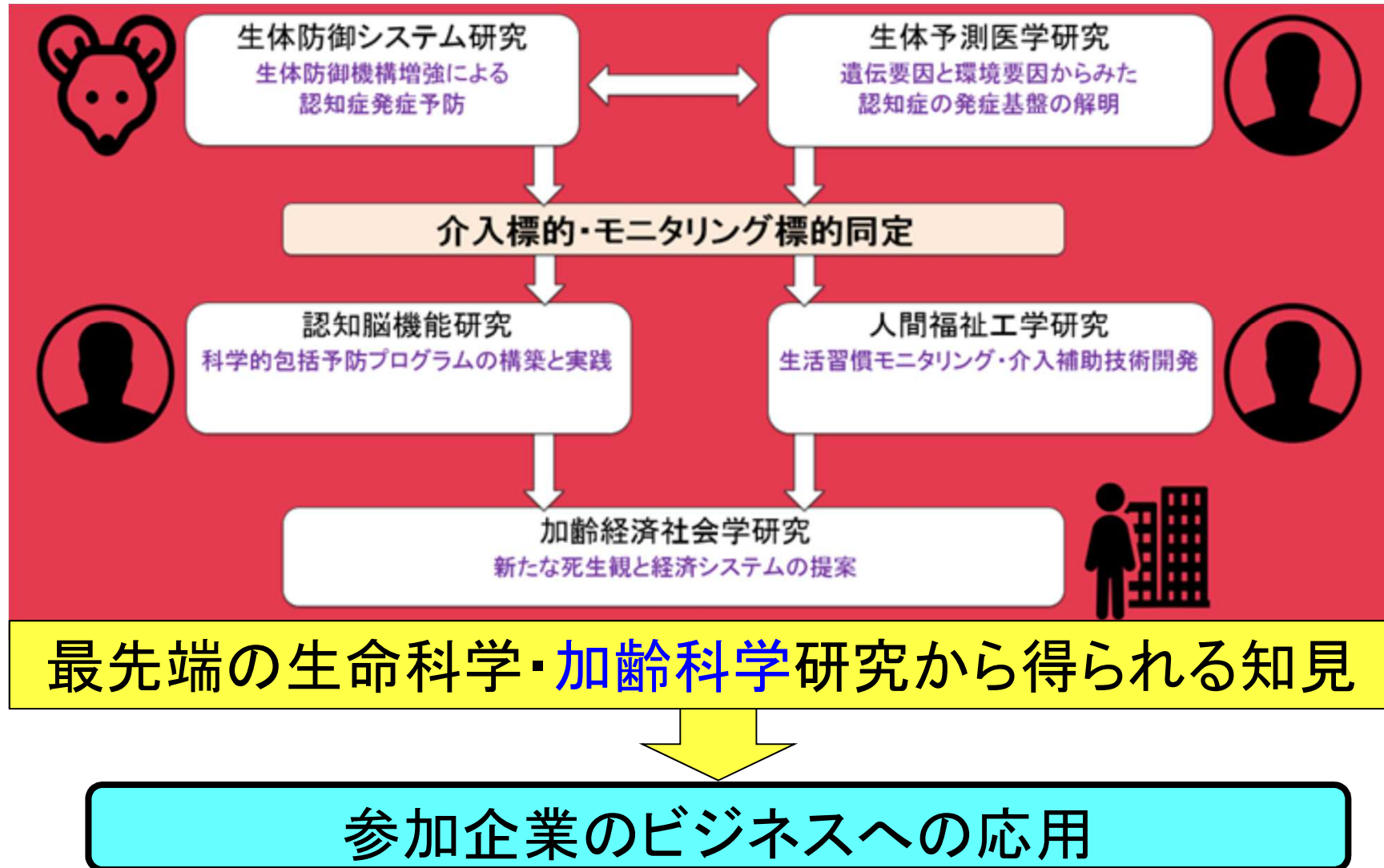
# 東北大学SAC東京第5期 各コースでの活動

1. 月例会
2. 産学連携フォーラム
3. テーマ別分科会
4. 産学共同研究支援

# SAC東京はSAセンターの知見提供の場です



スマート・エイジング学際重点研究センターの研究活動



最先端の生命科学・加齢科学研究から得られる知見

参加企業のビジネスへの応用



# 月例会の特長： センター6部門の研究エッセンスが**全体包括的に把握可能**



## 生体防御システム研究

1. 本橋 ほづみ 教授／酸化ストレスと健康
2. 小笠原 康悦 教授／免疫機能と健康
3. 仲川 清隆 教授／食品の酸化劣化機構と健康

## 認知脳機能研究

1. 川島 隆太 教授／脳科学を新産業に応用する
2. 荒井 啓行 教授／認知症克服のための脳科学研究
3. 杉浦 元亮 教授／加齢の脳科学
4. 筒井健一郎教授／報酬系・罰系と消費行動
5. 坂井 信之 教授／消費者は美味しさをどう感じるか
6. 野内 類 准教授／スマート・エイジング研究の実際

## 予防予測医学研究

1. 山本 雅之 教授／東北メディカルメガバンク計画とゲノム医療
2. 瀧 靖之 教授／生涯健康脳の維持
3. 小坂 健 教授／社会経済状況と口腔ケア
4. 長神風二 特任教授／ゲノム医科学の倫理

## 人間福祉工学研究

1. 吉澤 誠 教授／カメラによる健康センシング
2. 永富 良一 教授／健康は測れるか

## 加齢経済社会学研究

1. 吉田 浩 教授／人口高齢化と人工知能社会
2. 鈴木 岩弓 総長特命教授／日本人の死生観
3. 阿部 恒之 教授／美しさと加齢

## シニアビジネス・社会実装

1. 村田 裕之 特任教授／スマート・エイジング・ビジネス
2. 小川 利久 SA東京事務局長／介護ビジネス

# 活動内容(1)

## 月例会



1. 開催日: 原則毎月第3または第4木曜日
2. 開催場所: 東北大学東京分室または東北大学東京サイト
3. 開催回数: コース I・II : 年12回、コースB: 年2回参加可
4. 時間: I : 10:00~12:30、II : 14:30~17:00
5. 構成
  - ① 講義、アイスブレイクと質疑
  - ② グループトークまたはパネルトーク
  - ③ グループ質疑

講師とテーマ詳細は本資料最後部の  
「月例会テーマと講師」を参照下さい



# SAC東京第5期コース I 講師とテーマ(予定)



\* 講師都合により内容、日程が変更になる場合があります。予めご了承下さい。

1	4月18日	木	10:00-12:30	東北大学東京サイト	川島 隆太 教授 加齢医学研究所 所長	スマート・エイジング概論
2	5月22日	水	10:00-12:30	東北大学東京分室	野内 類 准教授 加齢医学研究所	スマート・エイジング研究の実際①
2	6月27日	木	10:00-12:30	東北大学東京分室	村田 裕之 特任教授 スマート・エイジング学際重点研究センター	シニア市場とスマート・エイジング・ビジネス①
4	7月25日	木	10:00-12:30	東北大学東京分室	阿部 恒之 教授 文学研究科	美しさと加齢
3	8月22日	木	10:00-12:30	東北大学東京分室	瀧 靖之 教授 スマート・エイジング学際重点研究センター	生涯健康脳の維持
6	9月26日	木	10:00-12:30	東北大学東京分室	小坂 健 教授 歯学研究科	口からみた社会と健康の関係
7	10月24日	木	10:00-12:30	東北大学東京分室	小笠原 康悦 教授 加齢医学研究所	免疫機能を活用して健康支援産業を創出する
8	11月21日	木	10:00-12:30	東北大学東京分室	長神風二 特任教授 東北メディカルメガバンク機構	ゲノム医科学と社会との接点
9	12月19日	木	10:00-12:30	東北大学東京分室	筒井 健一郎 教授 生命科学研究科	脳内の「報酬系」「罰系」は消費行動にどう影響するか？
5	1月23日	木	10:00-12:30	東北大学東京分室	本橋ほづみ 教授 加齢学研究所	酸化ストレス防御と健康
11	2月20日	木	10:00-12:30	東北大学東京分室	永富良一 教授 医工学研究科	運動と健康
12	3月19日	木	10:00-12:30	東北大学東京分室	吉田 浩 教授 経済学研究科	人口高齢化の経済・社会に及ぼす影響

・東北大学東京分室:千代田区丸の内一丁目7番12号 サピアタワー10階  
 ・東京サイト:中央区日本橋本町二丁目3番11号日本橋ライフサイエンスビルディング9階

# SAC東京第5期コースⅡ 講師とテーマ(予定)



\* 講師都合により内容が変更になる場合があります。予めご了承下さい。

回	月日	曜日	時刻	会場	講師(担当)	講義名(テーマ・内容)
1	4月18日	木	14:30-17:00	東北大学東京サイト	川島 隆太 教授 加齢医学研究所 所長	脳科学を応用して新産業を創成する①
2	5月22日	水	14:30-17:00	東北大学東京分室	野内 類 准教授 加齢医学研究所	スマートエイジング研究の実際②
2	6月27日	木	14:30-17:00	東北大学東京分室	吉澤 誠 教授 工学研究科	カメラによる健康センシング～身体映像からの生体情報抽出
4	7月25日	木	14:30-17:00	東北大学東京分室	鈴木 岩弓 総長特命教授 教養教育院	日本人の死生観 過去・現在・未来
3	8月22日	木	14:30-17:00	東北大学東京分室	仲川 清隆 教授 農学研究科	機能性食品、とくに抗酸化食品を考える
6	9月26日	木	14:30-17:00	東北大学東京分室	村田 裕之 特任教授 スマートエイジング学際重点研究センター	シニア市場とスマート・エイジング・ビジネス②
7	10月24日	木	14:30-17:00	東北大学東京分室	坂井 信之 教授 文学研究科	消費者はどのようにしておいしさを感じているのか?
8	11月21日	木	14:30-17:00	東北大学東京分室	杉浦 元亮 教授 加齢医学研究所	脳機能イメージングによる人間理解:その新発想を製品・サービスの開発に活かす
9	12月19日	木	14:30-17:00	東北大学東京分室	荒井 啓行 教授 加齢医学研究所	アルツハイマー病の克服に向けて
5	1月23日	木	14:30-17:00	東北大学東京分室	山本 雅之 教授 東北メディカル・メガバンク機構 機構長	東北メディカル・メガバンク計画とゲノム医療
11	2月20日	木	14:30-17:00	東北大学東京分室	小川 利久 SAC東京事務局長	介護現場から見た認知症ケアの実際
12	3月19日	木	14:30-17:00	東北大学東京分室	川島 隆太 教授 加齢医学研究所 所長	脳科学を応用して新産業を創成する②

・東北大学東京分室:千代田区丸の内一丁目7番12号 サピアタワー10階  
 ・東京サイト:中央区日本橋本町二丁目3番11号日本橋ライフサイエンスビルディング9階

Copyright© Smart-Aging Research Center All Rights Reserved.

## 月例会 優待受講制度

- 第5期までの累積参加口数に応じて、月例会への優待受講コマを次の通り提供します。

第5期までの累積口数	第5期優待受講コマ数
1	1
2	2
3	3
4	4
5	5
6	6
7	7
8	8
9	9

※新規紹介企業が参加決定した場合、参加1口当り4コマを付与

# 活動内容(2)

## 産学連携フォーラム



1. 目的: **大学と企業との産学連携のきっかけづくり**
2. 開催日時:
  - ① 第1回: 7月11日(木) 14:00-17:30
  - ② 第2回: 11月7日(木) 14:00-17:30
3. 開催場所: 東北大学東京サイト
4. 構成
  - ① 東北大学研究最前線
  - ② 参加企業活動ピッチ
  - ③ グループトーク
  - ④ グループ別発表 & アドバイス

# 活動内容(3) テーマ別分科会



## 1. 目的

- ① カレッジの課外活動
- ② 参加企業どうしのコラボ機会の創出

## 2. 開催時期:5月組織化開始

## 3. 運営要領

- ① 参加企業からの呼びかけで組織化
- ② コース毎に幹事会社を決定し、参加企業主体で運営
- ③ 開催会場は分科会参加企業で持ち回り
- ④ 分科会は、コース I・II・Bそれぞれ別々に運営

# 活動内容(4)

## 産学共同研究支援



### 1. 目的

- 東北大学との個別産学共同研究を希望の場合、円滑なプロジェクト組成をご支援すること

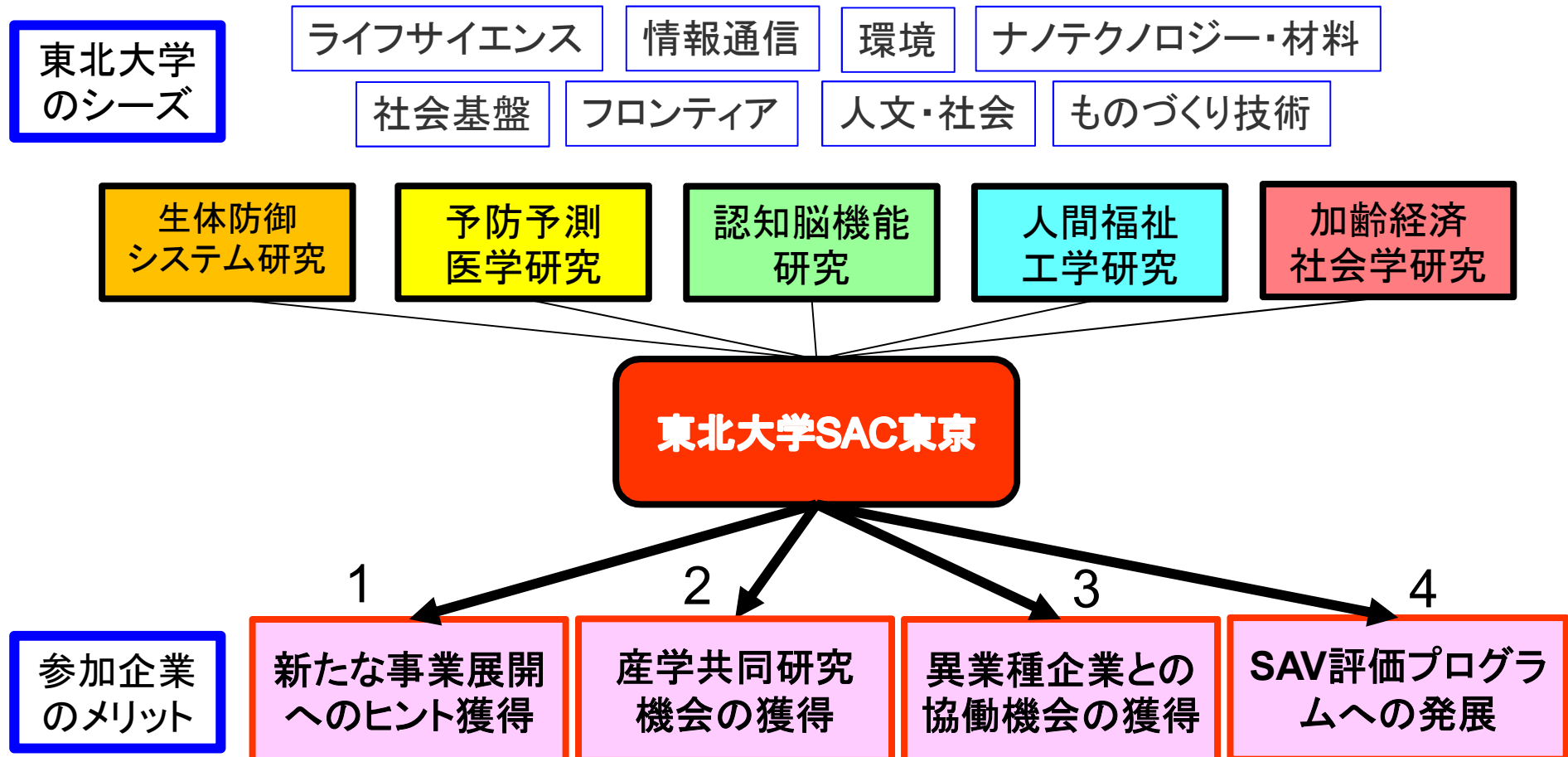
### 2. 特長

- 生命科学分野の個別産学共同研究を希望の場合、当該案件をご相談頂くことで、どのような進め方が最適かを的確にアドバイスします。  
(通常は産学連携機構へ直接お問い合わせを頂きます)

### 3. ご支援手順

- ① 当該案件が産学共同研究になりうるかを確認します。
- ② 貴社が大学担当教員との面談に臨むのかを確認します。
- ③ 大学担当教員が貴社と面談する意思があるかを確認します。

# SAC東京への参加で貴社の事業に役立つ 「4つのメリット」が得られます





# 東北大学SAC東京第5期 参加留意事項



## 1. 参加に関する留意事項

- ① 1業種1社の制約はありません。ただし、特定の業種に過度に偏らないように調整させていただきます。
- ② 東北大学SAC東京第5期への参加は法人限定です。個人事業主、個人、学生は参加できません。
- ③ 複数企業で構成される法人(社団法人、組合等)の場合は、事前に事務局にご相談下さい。
- ④ 以下の企業等の参加は原則お断りします。
  - i. 調査会社、シンクタンク、コンサルティング会社、投資会社、大学、など

## 2. 参加申込みの手順

- ① 別紙の参加申込書に必要事項をご記入、社印(または所属印)を捺印の上、まずPDFファイルでメールにて事務局までお送り下さい。同時に捺印済原紙を事務局あてにお送り下さい。
- ② お送り頂いた参加申込書の内容を事務局にて確認させていただきます。
- ③ 参加要件を満たす場合、振込依頼書をお送りしますので、原則受領から1ヶ月以内にお支払い下さい。
- ④ 請求書が必要な場合は、参加申込書の該当欄で「必要」を選択して下さい
- ⑤ 一度ご入金いただいた参加料はいかなる理由でも返金致しませんのでご了承下さい。
- ⑥ 2019年3月末日までにお支払いを希望される場合は、事前に事務局にご相談下さい。

## 3. 個人情報の管理

- ① 頂いた個人情報は、東北大学SAC東京事務局が責任をもって管理し、東北大学SAC東京の運営に必要な範囲内のみで利用させていただきます。

# 東北大学SAC東京第5期 参加規則



## 1. 参加者登録と事務局からの連絡

- (1)参加者登録は「責任者」1名、「連絡窓口」各コースにつき1名です。
- (2)「責任者」はSAC東京への貴社としての参加と参加料支払の義務を負います。
- (3)「連絡窓口」はSAC東京事務局との連絡調整役と自社内での連絡調整役の義務を負います。
- (4)SAC東京事務局から貴社への連絡は「責任者」と「連絡窓口」に原則メールで行います。
- (5)既登録者が異動等で交代の場合は、必ず所定の「登録事項変更届」で事務局へ届けて下さい。

## 2. 月例会等のイベント

- (1)月例会等のイベントへは毎回事務局に事前に出欠確認のうえ参加下さい。
- (2)公共交通機関の遅延による場合を除き、遅刻は厳禁とします。
- (3)やむを得ず遅れる場合は、必ず事前に事務局へ連絡して下さい。
- (4)月例会の中途退席も遅刻と同様の取り扱いとします。
- (5)月例会中の録音、録画は厳禁です。
- (6)月例会中は携帯電話をマナーモードにして下さい。
- (7)月例会中のスマホ等によるメール送受信も極力ご遠慮下さい。
- (8)会場での飲食はペットボトル等の飲料のみに限定します。

# 東北大学SAC東京第5期 参加規則(続き)



## 3. 月例会等のイベントでの配布資料

- (1) 月例会各講師からの講義資料は当日配布します。
- (2) 講義資料ファイルは月例会翌日にSAC東京サイトからダウンロード配布します。
- (3) ダウンロード配布の連絡は「責任者と担当窓口」あてに行いますので参加者にお伝え下さい。
- (4) 講義資料の閲覧は貴社内限りでお願いします。
- (5) 講義資料の無断転載・コピー・インターネットでの公開等をご遠慮下さい。

## 4. SAC東京活動のSNS等への投稿

- (1) 月例会等のイベント風景の撮影と参加の感想等のSNSへの投稿はご自身の責任において可能とします。
- (2) ただし、個人情報特定される写真、講義資料の内容がわかる写真の投稿をご遠慮下さい。

## 5. テーマ別分科会活動での留意事項

- (1) テーマ別分科会活動でスマート・エイジング・カレッジ、SAC東京、SACなどの用語を何らかの形で利用の場合、必ず事前にSAセンター東京分室からの承諾を得て下さい。承諾なしの利用は固くお断りします。
- (2) テーマ別分科会活動への参加は、SAC東京第5期参加企業に限ります。
- (3) コース I・II・B、それぞれ別々に運営します。

## 参考資料

# 月例会テーマと講師ご紹介 (研究分野別)



# 認知脳機能研究

# テーマ: スマート・エイジング概論

講師: 川島隆太教授(かわしま りゅうた) 加齢医学研究所所長



わが国脳機能イメージング分野のパイオニア、脳機能開発研究の第一人者。

認知症高齢者の認知機能を向上させ、米国にも輸出された「**学習療法**」、全世界で3,300万本以上売れ、**脳トレブーム**を生み出した任天堂「**脳を鍛える大人のDSトレーニング**」など数多くの産学連携実績を生み出している。

## ■ 講義概要

1. 東北大学と加齢医学研究所について
2. スマート・エイジングという考え方とその社会的背景
3. 簡易検査によるSA評価枠組み
4. テレビやスマホの長時間視聴の脳への弊害についての最新研究動向

👉 講義レポートを読みたい方はこちら

<http://www.sairct.idac.tohoku.ac.jp/activity/secretariat-report/1720/>

## ■ 参加者の声

- スマート・エイジングの定義、認知症に関する様々な研究について、まさに高齢者介護事業を行っている弊法人にとって、即介護サービス内容に活かせる内容でした。
- 学問的な観点からの話は、新鮮だった。単なる仮説だけでなく、データに基づいているところが今後のビジネスにおいても非常に参考になると感じた。
- 単純に新しいツールの活用は良いことと思っていたため、テレビやスマホと脳の活動の関係については素直に驚きだった。
- 大規模な脳科学に対する計測システムを保有し、疫学的な調査も大規模で論理的だし、しかもそれを実学的に社会に反映、還元させるとの意志を強く感じ、聞いていました。

👉 もっと読みたい方はこちら

<http://www.sairct.idac.tohoku.ac.jp/activity/member-report/1724/>

# テーマ:アルツハイマー病の克服に向けて

講師:荒井啓行(あらい ひろゆき) 加齢医学研究所



## バイオマーカーによる認知症研究の先駆者

アルツハイマー病をはじめとする認知症では臨床症状出現に先だって、脳内で老人斑や神経原線維変化など様々な病理変化が脳内で進行すると考えられている。この病理変化を検出する「バイオマーカー」の開発で世界をリードしている。

### ■講義概要

1. 老化制御モデルから認知症克服へ
2. アセチルコリン仮説から生まれたドネペジル
3. アミロイド仮説からの疾患修飾薬開発
4. アルツハイマー病疾患概念の変遷
5. 病理像を画像化するバイオマーカーの開発
6. アルツハイマー病予防は可能か?

### ■参加者の声

- 今後の創薬の戦略など、この分野の第一人者からしか聞けないような情報もあり、良かったです。
- アルツハイマー進行に関する脳内メカニズムが明確になり、初期段階への積極的介入により認知症が防げる可能性が実際に始まっている事実を知った。
- 認知症の発症メカニズム、治療戦略(超早期介入の重要性)、治療標的など、非常にシンプルに分かりやすくご説明いただき大変参考になりました。
- 「アミロイドは引き金、タウは弾丸」という例えは素晴らしく、引き金ばかりたくさんあっても認知症になるとは限らないとのお話には深く納得が이었습니다。

👉 講義レポートを読みたい方はこちら

<http://www.sairct.idac.tohoku.ac.jp/activity/secretariat-report/2071/>

👉 もっと読みたい方はこちら

<http://www.sairct.idac.tohoku.ac.jp/activity/member-report/2073/>



# テーマ：脳機能イメージングによる人間理解

講師：杉浦 元亮(すぎうら もとあき) 加齢医学研究所



## 高次認知脳研究のパイオニア

現実の複雑な世界における人間の認知・行動の脳メカニズムを、脳機能イメージング法を使って研究中。自己認知・現実的状况の認知・社会的行動の神経基盤解明、災害時の人間の社会的対応に関する認知神経科学的研究に注力している。

## ■講義概要

1. 脳機能イメージングの基礎
2. 自己3層モデル
3. 脳機能の加齢変化
4. ポジティブなエイジングのための2つの扉

👉 講義レポートを読みたい方はこちら

<http://www.sairct.idac.tohoku.ac.jp/activity/secretariat-report/2232/>

## ■参加者の声

- 加齢によって低下する脳機能と、それをカバーし適応しようとする質的な変化を、独自の自己3層モデルを使って論理的に整理し、そのうえでポジティブなエイジングのために有効な具体的方法論を積極的に模索しようという試みは、大変説得力があり興味を覚えました。
- 脳の活動状態を可視化する、という分野がここまで発展していることを初めて知った。
- 心理学や哲学のような側面も絡めながら画像をとらえるという観点は自分にとっては新しく感じた。
- 元気な脳を保つことは多くの方が望んでいることだと思うので、今後の研究の参考にしていきたいと思う。

👉 もっと読みたい方はこちら

<http://www.sairct.idac.tohoku.ac.jp/activity/member-report/2234/>

# テーマ：脳内の「報酬系」「罰系」は消費行動にどう影響するか？

講師：筒井健一郎（つつい けんいちろう） 生命科学研究科



## 高次脳機能研究のパイオニア

03年日本神経科学学会奨励賞、09年日本心理学会国際賞奨励賞受賞。動物実験による脳内報酬系や前頭葉の高次脳機能の基礎研究が専門。最近はうつ病のメカニズムの解明にも挑んでいる。

## ■講義概要

1. 脳・神経系の基礎知識
2. 脳の「報酬系」とドーパミン
3. 脳の「罰系」とうつ
4. 脳と社会行動

👉 講義レポートを読みたい方はこちら

<http://www.sairct.idac.tohoku.ac.jp/activity/secretariat-report/2664/>

## ■参加者の声

- 報酬系・罰系に関する脳の仕組みを、基礎の部分からゆっくりかつ丁寧にご教示頂いた。
- 行動心理と脳内伝達物質のイメージが、具体的に持てたので、今後の教育や計画に対する消費者の行動予測に役立てたいと思います。
- 脳の働きや報酬や罰系の話など今後の顧客へのアプローチなどにも参考になると思いました。
- ドーパミン、セロトニンといった神経伝達物質の担う役割について、とてもよく理解できました。また神経細胞のメカニズムについても理解が深まりました。
- 人の感情は脳内ネットワーク「報酬系」「罰系」が制御している、ここが分かれば感情をコントロールすることもうつ病も治すことも可能であるかもしれないという点が面白かったです。

👉 もっと読みたい方はこちら

<http://www.sairct.idac.tohoku.ac.jp/activity/member-report/2666/>

# テーマ: 消費者はどのようにしておいしさを感じているのか?

講師: 坂井信之(さかい のぶゆき) 文学研究科



## 認知神経科学のパイオニア

ヒトがどのような心理・脳メカニズムで外界を認知しているかということ、食物のおいしさ、においの心地よさなどを通じて、理解するメカニズムを研究中。におい・かおり環境学会学術賞(2006年)、電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーション賞(2013年)授賞。

## ■講義概要

1. 味覚の受容
2. 味覚の認知
3. 五基本味
4. その他の「味」
5. 味わいにおける共感覚

## ■参加者の声

- 味の好み「勘違い」であることは衝撃的で、その勘違いを意図的・戦略的に起こすこととブランドづくりとを関連させているお話にとっても興味を持った。
- 成分としてのおいしさに目が行きがちですが、食べる側が感じるおいしさを科学する重要性を知ることができました。
- 企業の研究開発部門視点では、味・香りに注目が行きがちであるが、外観やブランドイメージまでもが、実際商品消費する際の嗜好度に大きな影響を及ぼすことを、客観的データを見ながら理解することができた。
- おいしいと思うことそのものは、脳活動の総合的な表現型であり、かみ砕いて言うと脳の健康度を示す一つの指標であると自分なりに理解した。

👉 講義レポートを読みたい方はこちら

<http://www.sairct.idac.tohoku.ac.jp/activity/secretariat-report/2564/>

👉 もっと読みたい方はこちら

<http://www.sairct.idac.tohoku.ac.jp/activity/member-report/2566/>



# 予防予測医学研究

# テーマ：東北メディカル・メガバンク計画とゲノム医療

講師：山本雅之（やまもと まさゆき）東北メディカルメガバンク機構 機構長



**未来型の地域医療体制で復興支援する東北メディカルメガバンク機構の提唱者。**

04年「トムソン・ロイター リサーチフロントアワード」受賞者。切り開いた研究領域は、今や世界中で年間700報以上の論文が発表される確固たる分野に発展。最先端ゲノム研究と情報ICT化が切り拓く次世代型地域医療モデル構築を推進中。

## ■ 講義概要

1. 東北メディカル・メガバンク機構の設立
2. 私たちの目指す最先端医療
3. 東北メディカル・メガバンクでのゲノムコホート研究
4. 未来型の個別化予防の実現に向けて

👉 講義レポートを読みたい方はこちら

<http://www.sairct.idac.tohoku.ac.jp/activity/secretariat-report/1813/>

## ■ 参加者の声

- GISを利用した場所と行動や健康の関連性等は、非常に興味深かった。また、知財を分譲するという考え方が非常に印象的であった。
- ゲノム解析の意義（特に、PHCを通じた健康寿命延伸の実現）についてわかりやすい言葉で説明いただき、業務上の検討においても大変役立つものと考えました。
- 壮大なゲノム計画に圧倒されました。その中でもジャポニカアレイや3世代コホートについての取り組みは面白かったです。
- ゲノムの理解により、医療が治療だけでなく予測・予防へ広がることが理解できた。
- 個人のゲノムによるところと環境要因によるところについては、（弊社の立場であれば）環境要因でも貢献できるのではと思いました。

👉 もっと読みたい方はこちら

<http://www.sairct.idac.tohoku.ac.jp/activity/member-report/1815/>



# テーマ:生涯健康脳の維持

講師:瀧 靖之(たき やすゆき) 加齢医学研究所



脳の発達から加齢までのトピックを網羅した研究分野の第一人者。

近著「生涯健康脳」が大ヒット。大規模脳画像データベースを用いて、脳の発達、加齢を明らかにし、どのような生活習慣が脳の加齢を抑えるかを明らかにしてきた。これまで学会賞、論文賞など多数受賞。

## ■講義概要

1. 脳科学からみる脳の発達と加齢
2. 脳の発達
3. 脳の加齢と認知症
4. 脳科学を応用した認知症予防事業

👉講義レポートを読みたい方はこちら

<http://www.sairct.idac.tohoku.ac.jp/activity/secretariat-report/1971/>

## ■参加者の声

- 子供の脳の発達について、また認知症予防ないしは脳の加齢予防について、親子で相乗効果ができる活動がある等の情報を知ることができてよかったです。
- 健康寿命をめぐる問題は、「高齢」になった人が抱える問題ではなく、幼少期から知的好奇心を育む環境づくりや習慣、青年期での生活習慣など、関係性は幅広いことがわかりました。
- 健康寿命延伸ビジネスの事業化を検討するにあたり、まずは、先入観や固定概念を捨てることが重要だと思いました。
- 脳科学からの説明も説得力ありましたが、これからの社会の仕組みや私たちの生き方そのものの変革を考える上で、社会現象の捉え方がとても正しく感じられ、明るく解決していける示唆に富んでいました。

👉もっと読みたい方はこちら

<http://www.sairct.idac.tohoku.ac.jp/activity/member-report/1974/>



# 生体防御システム研究



# テーマ:酸化ストレス防御と健康

講師:本橋ほづみ(もとはし ほづみ) 加齢医学研究所



## 加齢によるストレス応答研究の第一人者。

実験動物を用いた検討から、カロリー制限と酸化ストレスの適切なコントロールが長寿をもたらすことが示されており、酸化ストレス応答機構の理解は加齢医学の主要な柱の一つとして研究を進めている。

### ■講義概要

1. 酸素が生命にもたらした功罪
2. 酸化ストレスは多くの病気の原因になっている
3. 毒とは?親電子性物質とは?
4. 解毒のはたらき
5. 生体防御機構を担うタンパク質NRF2
6. NRF2の活性化が健康増進につながる

### ■参加者の声

- 酸化ストレスが健康に及ぼす影響について、その原理の理解、またそれを防御する方法、日常での効果的な食習慣などにも示唆を頂き大変勉強になりました。
- 活性酸素、フリーラジカルは、ここ20年、常にOTCや健康食品の情報提供でポイントになる概念でその部分の理解が深められた。
- KEAP1親電子性物質、NRF2の関係性とその働きには生体防御の鍵となる可能性が確かに感じられ、これからの研究に目が離せないとおもいました。
- NRF2誘導剤の有効性が示唆されている疾患の多さにも驚きました
- 摂取する食品を考慮することで環境応答メカニズムを活発化、病気の予防を期待できるというストーリーは大変興味深いものでした。

👉 講義レポートを読みたい方はこちら

<http://www.sairct.idac.tohoku.ac.jp/activity/secretariat-report/2231/>

👉 もっと読みたい方はこちら

<http://www.sairct.idac.tohoku.ac.jp/activity/member-report/2233/>

# テーマ:免疫機能を活用して健康支援産業を創出する

講師:小笠原康悦(おがさわら こうえつ) 加齢医学研究所



## わが国NK細胞研究、金属アレルギー研究の第一人者。

免疫学、特にNK細胞の生物学の研究を行い、Nature, Nature Immunology等に論文掲載。06年文部科学大臣表彰若手科学者賞、日本免疫学会研究奨励賞、受賞。11年より日本学術会議(第22期)連携会員。

### ■講義概要

1. 免疫機能を利用した産業化
2. 健康をモニターすることが産業につながる
3. 免疫特異性を基盤とした認知症・加齢疾患研究への展開
4. T細胞受容体レパートリー解析で個別化健康管理が可能となる

👉講義レポートを読みたい方はこちら

<http://www.sairct.idac.tohoku.ac.jp/activity/secretariat-report/2476/>

### ■参加者の声

- 免疫分野の初歩について、わかりやすく解説していただいた。大規模データ化というところに関して、具体的にどう進める予定なのかが分かってよかった。アカデミックすぎず、商業的すぎず、とてもバランスのとれた先生でいらっしやると感じました。
- 免疫力が高い、低いの意味、免疫の機能＝監視、記憶、向上、療法など、なんとなく概念的に理解していた事項が、体系的に整理することができた。
- T細胞の関与する生活習慣病関連疾患に関しても、今後新たな創薬支援に繋がる可能性を感じました。
- TCRのバリエーション解析という、自身では想定していなかった最先端の研究の情報を入手できた。

👉もっと読みたい方はこちら

<http://www.sairct.idac.tohoku.ac.jp/activity/member-report/2478/>



# 人間福祉工学研究

# テーマ:カメラによる健康センシング～身体映像からの生体情報抽出

講師:吉澤 誠(よしざわ まこと) サイバーサイエンスセンター



## サイバー空間活用医療システムの第一人者

民間企業7社と生体情報伝送システム(電子診療靴)を開発、東日本大震災後の気仙沼市避難所や特養に適用、大学発ベンチャーTESSとバーチャル足こぎ車いすの開発、在宅医療心電図伝送・監視システム「Duranta」の製品化など多くの製品化実績がある。

## ■講義概要

1. 循環制御系の巧妙な仕組み
2. ビデオカメラの映像信号から遠隔非接触的に血圧変動を推定する方法
3. 健康モニタリングへの応用について
4. 国が推進する産学連携プロジェクト

## ■参加者の声

- スマートフォン搭載カメラレベルで脈派のセンシングが可能になることで、ヘルスケア事業での応用可能性が高いものと思いました。
- 得られたデータをどのように解析するかが、その基準値を設定するためのエビデンスデータの取得などで、企業やCOI等の連携が事業化するうえでの鍵になるように思います。
- 専門用語・データが多用されており、難しく感じる部分もあったが、「健康経営」的なテーマと重なることで、自社のビジネスに関連付けていくイメージが持てた。
- 「看取りのシグナル」という発想が新鮮だった。
- 映像を解析することで、被写体の健康状態をモニターするという発想が大変ユニークで、今後さらなる技術開発は不可欠ながら、大きな将来性が期待される研究であると思いました。

👉 講義レポートを読みたい方はこちら

<http://www.sairct.idac.tohoku.ac.jp/activity/secretariat-report/1973/>

👉 もっと読みたい方はこちら

<http://www.sairct.idac.tohoku.ac.jp/activity/member-report/1976/>

# テーマ:健康は測れるか？

講師:永富 良一(ながとみ りょういち) 医学部医工学研究科



スポーツ・運動・身体活動の分子生物学から疫学、地域の健康づくり研究の第一人者。

文部科学省地域イノベーション「知的クラスター創成事業」(2005年宮城県ものづくり大賞グランプリ受賞)に参加、歩幅や歩き方変化に対応したエネルギー消費量測定システム「Locomoni®」の開発等多数。

## ■講義概要

1. 健康とは
2. 危険因子とは
3. 予防効果の評価
4. 生活習慣と危険因子
5. 食事・食品・食習慣
6. ミクロビオーム?
7. ウェアラブルデバイスで健康をはかる!?

👉 講義レポートを読みたい方はこちら

<http://www.sairct.idac.tohoku.ac.jp/activity/secretariat-report/2069/>

## ■参加者の声

- 腸内フローラのホリスティックな身体、精神への影響に関して、コホート研究の専門家の先生からお話を聞いた。
- 公衆衛生としての健康と、個人の立場の健康、二つの側面が大変参考になった。様々な指標、健康寿命延伸などのスローガンが、これまでは実感の伴わない取組に感じていたが、今後は両者を一連の流れの中で考え、既に利用できるエビデンスにも注意をはらいながら、弊社なりの健康増進計画を検討していきたい。
- 健康の考え方を公衆衛生としてとらえるのか、個人の立場としてとらえるのか、また研究者のニーズ≠一般のニーズということもどのフェース・事象から考察するかによって、見え方・考え方・結果が異なるということをあらためて感じる事ができました。

👉 もっと読みたい方はこちら

<http://www.sairct.idac.tohoku.ac.jp/activity/member-report/2072/>



# 加齡經濟社会学研究



# テーマ：人口高齢化の経済・社会に及ぼす影響

講師：吉田 浩（よしだ ひろし） 経済学研究科



## 加齢経済学、特に世代間所得再分配の第一人者。

文部科学省 革新的イノベーション創出プログラムの「さりげないセンシングと日常人間ドックで実現する理想自己と家族の絆が導くモチベーション向上社会創生拠点」でゲノム・健康情報ビジネスの産業化に関する調査を担当

## ■講義概要

1. 2045年問題とは
2. 人工知能の発展と社会
3. 我々はなぜ人工知能を恐れるのか
4. 人工知能と人間の3つの失敗
5. 2045年、極・高齢社会の鍵となる人工知能
6. 人工知能は人間を押し除けるか

## ■参加者の声

- 2045年問題は最近話題であるものの、実際実感ないままに、漠然とした理解だけがあったが、漠然としていた点、とくに極高齢社会との兼ね合い、未来社会におけるAIの必要性について認識を新たにできました。
- 人工知能について、技術的なことだけではなく、多角的な視点で議論が今後も必要であることを認知できました。
- いま話題のAI(人工知能)をシニアビジネスの観点からさまざまな事例を入れての講義でたいへん参考になりました。
- 普段はシニア層をどうしても「消費者」としてのみ捉えることが多いが、講義およびグループワークで、AIの方向付けに影響力を持つ「社会資本」としてのシニア層に意識が広がった。

👉 講義レポートを読みたい方はこちら

<http://www.sairct.idac.tohoku.ac.jp/activity/secretariat-report/1904/>

👉 もっと読みたい方はこちら

<http://www.sairct.idac.tohoku.ac.jp/activity/member-report/1902/>



# テーマ：日本人の死生観 過去・現在・未来

講師：鈴木岩弓(すずきいわゆみ) 教養教育院



## 宗教民俗学的視座からの死生学研究者。

震災後の2012年4月からは文学部に「実践宗教学寄附講座」を設置し布教では無く、超宗派超宗教的見地からグリーフケア、ターミナルケアそして医療者のための宗教的ケアができる「臨床宗教師」の養成を目指し、公立病院での雇用も始まり社会実装が進んでいる。

### ■ 講義概要

1. はじめに
2. 現代日本の「死」の状況
3. 「死者」とは誰か？
4. 「死者」と「生者」の接点
5. 死後の「死者」-「死者」への“想い”-
6. 人称からみた「死者」の記憶

### ■ 参加者の声

- これまであまり深く考える機会がなかった死生観について、しっかりと学ぶことができ非常に参考になった。日本人の暮らしの変化とともに葬式の在り方も今まさに変化しているという話はとても興味深かった。
- 私は特別養護老人ホームを経営しておりますが、医療機関での延命治療を拒否され、当ホームでの看取りケアをご希望され過ぎられている方々がいらっしゃいます。その方々へは勿論の事、このことに関わるスタッフにとっても死を受け止めるに際して必要となる内容だと感じ、大変参考になりました。
- 「死」をただの「終わり」ではなくライフステージの一部として捉え、その周辺にある様々なニーズを考える視点が得られたから。
- 日本でのイェ制度の弱体化による変化を再認識できた。

👉 講義レポートを読みたい方はこちら

<http://www.sairct.idac.tohoku.ac.jp/activity/secretariat-report/3320/>

👉 もっと読みたい方はこちら

<http://www.sairct.idac.tohoku.ac.jp/activity/member-report/3319/>

# テーマ: 美しさと加齢

講師: 阿部恒之(あべ つねゆき) 文学研究科



## わが国における化粧心理学のパイオニア。

「化粧は日常生活に組み込まれた感情調整装置である」と考え、化粧療法などを研究。複数の化粧品メーカーとの共同研究。国交省からの委託研究(名取川美化アドバイザー, 2010年度~)など実績多数。

## ■ 講義概要

1. 美しさと自己像
2. 加齢・美
3. スマートエイジングへの共感
4. 老いの現在

👉 講義レポートを読みたい方はこちら

<http://www.sairct.idac.tohoku.ac.jp/activity/secretariat-report/2414/>

## ■ 参加者の声

- スキンケアの概念が出てきてから健康の延長線上に美しさがあるという流れになった、との話は新鮮であった。
- 加点方法の美意識が日本の文化に根付くことが、日本人の幸福感のアップにつながった。
- 人の美しさの定義は時代・文化・環境により大きく異なることを知り、これからの時代に即して新たに定義付けできる可能性を感じました。
- 知らず知らず平均値が自分の頭にあり、その平均値との乖離を自然に見ているという考え方も参考になった。
- 身体的健康、精神的成長にふさわしい外見も必要、ただしそれは＝若いこと、ではないのだと、スツと納得できました。

👉 もっと読みたい方はこちら

<http://www.sairct.idac.tohoku.ac.jp/activity/member-report/2416/>

# シニアビジネス・社会実装

# テーマ:シニア市場とスマート・エイジング・ビジネス

講師:村田裕之(むらた ひろゆき) SA学際重点研究センター



わが国シニアビジネス分野のパイオニア。高齢社会研究の第一人者。

女性専用フィットネス「カーブス」の日本への導入、NTTドコモ「らくらくホン」の開発、「学習療法」の米国への輸出など850以上の民間企業と新事業創出に関わる。経済産業省や内閣府委員会委員など多くの公職を歴任。

## ■講義概要

1. 市場の見方を誤るな
2. スマート・エイジング・ビジネスと多様なミクロ市場へのアプローチ
3. 時代性の変化と消費行動の変化
4. シニアの消費行動は今後10年間でどう変わるか?
5. これから世界中で起こるシニアシフト
6. 高齢化する世界と日本企業の取るべき方向

👉 講義レポートを読みたい方はこちら

<http://www.sairct.idac.tohoku.ac.jp/activity/secretariat-report/1812/>

## ■参加者の声

- スマートエイジングに関する学術的なバックグラウンドだけでなく、ビジネスをする際のインサイトを分かりやすく説明していただきました。
- シニア市場とは多様なミクロ市場の集合体である事、と資産はあるが可処分所得は少ないという事がしっかり把握できた。
- 普段は研究業務が多く、マーケティング関係の知識に疎かったが、非常にわかりやすく、参考になった。
- いくつかの事実に基づいた情報、フィジビリティからのビジネスへの展開、など新たなビジネス創案のきっかけになりました。
- 実績事例を交えて具体的な傾向分析があり、今後の新規事業開拓のヒントが明確になってくる。カーブスの例は何度聞いても含蓄がありこの関連の応用はまだまだいかせると思う。

👉 もっと読みたい方はこちら

<http://www.sairct.idac.tohoku.ac.jp/activity/member-report/1814/>

# テーマ:介護現場から見た認知症ケアの実際

講師:小川利久(おがわ としひさ) SAC東京事務局長



## 介護施設経営の第一人者

04年より特別養護老人ホーム「ハピネスあだち」施設長として特養における口腔リハビリ・摂食嚥下機能評価、看取り援助を確立。学習療法実践モデル施設となり足立区学習療法実践研究会創設。13年4月、シンガポールAAIF2013でユニットケア、口腔リハビリ、学習療法、看取り援助の統合的ケアシステムが評価され MAJOR AWARD 受賞。

## ■講義概要

1. これからの介護のポイント
2. 高齢期に住みやすい住環境とは?
3. 認知症ケア
4. 食べる力の支援
5. 看取り援助 ~どう生ききたいか
6. これからの介護ビジネスはどうなるのか

## ■参加者の声

- 病院では死ねない時代になったことは、個人的には非常にショッキングな事実でした。
- 高齢化によりサービスを希望するニーズは高まっているものの、人材難のため思うように事業拡大・拡充ができないことが根本的な課題としてある。こうした最新の現状と直面する課題について把握することが出来た。
- 要介護軽度者の進行を抑えるような食品はビジネスチャンスとなる可能性がある。
- 家族からは、飲用状況・生活状況のモニタリングに対するニーズが強まる可能性が高い、といった新たな気づきを得られた。
- 介護業界のこれからの方向性も含め、また東北大SACで学んだ知見をより他業種と連携しながら生かしていけるイメージができた。

👉 講義レポートを読みたい方はこちら

<http://www.sairct.idac.tohoku.ac.jp/activity/secretariat-report/2665/>

👉 もっと読みたい方はこちら

<http://www.sairct.idac.tohoku.ac.jp/activity/member-report/2667/>

# 講師の産学連携実績紹介



## 川島 隆太 教授

1. 公文教育研究会／学習療法・脳トレドリル等
  2. 任天堂／脳を鍛える大人のDSトレーニング等
  3. 仙台放送／TV脳体操
  4. 学習研究社／脳トレドリル等
  5. カーブスジャパン／SAスクエア運営等
  6. 日立ハイテクノロジーズ／超小型NIRS
- 他多数

## 瀧 靖之 教授

1. 本田技研／脳画像データベースを用いた頭部交通外傷に関する研究等
  2. クラブツーリズム／旅行が認知症予防にもたらす効果の共同研究
- 他多数

## 山本 雅之 教授

1. 東芝／ゲノム解析ツールジャポニカアレイ®の社会実装
  2. NTTドコモ／携帯端末による妊婦の活動量等記録
  3. オムロンヘルスケア／被災地の生活習慣測定
  4. JR東日本／震災後の歩行習慣・BMIと交通網
  5. ヤクルト／乳酸菌飲料の保健効果
- 他多数

## 荒井 啓行 教授

1. 独立行政法人理化学研究所／血清糖蛋白質をバイオマーカーとするアルツハイマー病の診断薬
  2. セイリン／偽鍼、偽磁気絆創膏、及び、これらを用いた二重盲検試験方法
- 他多数



# 講師の産学連携実績紹介

講師の産学連携実績の一部を紹介いたします



## 阿部 恒之 教授

1. 資生堂／顔だち分類法及び顔だちマップ
2. トヨタ／車両用自律神経機能診断装置、車両用自律神経機能診断方法  
他多数

## 永富 良一 教授

1. IFG／運動努力をトリガとした同期的磁気刺激を行うリハビリテーションシステム
2. 日本素材株式会社／医療用連発磁気パルス発生装置  
他多数

## 仲川 清隆 教授

1. 旭松食品他／アザ糖を生産する微生物
2. 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構／油脂からのトコトリエノールとバイオディーゼル燃料の同時生産方法  
他多数

## 吉澤 誠 教授

1. 富士フイルム／脈波伝播速度の測定方法、その測定方法を用いた測定システムの作動方法及び脈波伝播速度の測定システム並びに撮像装置
2. 任天堂／生体情報処理プログラム、生体情報処理装置、生体情報処理方法および生体情報処理システム  
他多数

## 筒井 健一郎 教授

1. トヨタ／車両用注意喚起装置、車両用運転支援装置、車両用情報提供装置  
他多数

## 坂井 信之 教授

1. ネスレ日本／コーヒーの香りと人間の行動変容
2. サッポロビール／香りの覚醒感評価方法と嗜好性評価方法  
他多数





## 東北大学スマート・エイジング事業(2019年度) 参加費用・参加手続き手順は別添資料をご覧ください

### ■内容・手続きに関するお問い合わせ先

〒103-0023

東京都中央区日本橋本町二丁目3番11号

日本橋ライフサイエンスビルディング4階

東北大学スマート・エイジング学際重点研究センター東京分室

SA事業事務局 あて

電話:03-6225-2546 FAX:03-6225-2962

電子メール:sact@grp.tohoku.ac.jp

ホームページ:<http://www.sairct.idac.tohoku.ac.jp/>